



青い空 緑の山と風
黄色のうねりは
人類の理想 文化を表わす。
それらが混然一体調和して
ロータリーの理想に向けて
昂って行く姿を示している。



Weekly Report

地区の標語 **原点に帰りロータリーの心を学ぼう**
クラブの標語 **親睦と奉仕でクラブの和を深めよう**



大須多摩消防署長と防火服を着たメッテ

第269回例会報告 (5/15) (1995年～1996年度第42回例会)

- | | | |
|-----------------|----------|-----------------|
| 司会 | SAA委員会委員 | 田畑 博 |
| ◎点鐘 | 会長 | 萩生田茂夫 |
| ◎国歌「君が代」 | ソングリーダー | 吉沢 洋景 |
| ロータリーソング「奉仕の理想」 | | |
| ◎お客様紹介 | 会長 | 萩生田茂夫 |
| | | 大須 史朗様 (多摩消防署長) |

◎会務報告 会長 萩生田茂夫

この度、カルガリで行われる世界大会のポスターの件ですが、当クラブの中山会員のお嬢さんをお願いいたしまして出展させて頂きましたが、残念ながら入賞できませんでした。誠に有難うございました。

◎幹事報告 幹事 橋口 洋三

- 1) 本年度の委員会活動報告、各委員長さんご協力有難うございました。追加がありましたら幹事までお申し出下さい。
- 2) 次回5月22日(水)の例会は京王プラザホテル多摩の例会場です。お間違えのないようご出席下さい。
- 3) 青少年交換の派遣交換学生の志願が1人ありましたので、手続きをして地区の青少年交換委員会へ願書を送りました。願書を見ただけで、合格するのではない

かという高校1年生の男の子です。本年度は応募要領が変わりましたが、前年度は多摩ニュータウンタイムズで応募したら、12名の応募があり、多摩グリーンRCから、鈴木さん、小野さん、和気さんの3人も合格しました。(面接をした宮本前会長も大変だったと思いますが。)この5年間で多摩グリーンRCは6人の派遣交換学生を出しています。

- 4) ブラジルに行った派遣学生の鈴木なつみさんの報告書のコピーが各テーブルに置いてありますので、お読みになって下さい。

委員会報告

◎ニコニコBOX親睦活動委員会委員 小林 和夫

萩生田茂夫：大須署長様、ようこそ。

橋口 洋三：大須多摩消防署長様、本日の卓話、人数が少ないですがよろしくお願ひします。

大熊 将夫：消防署長様、先日はメッテがお世話になりました。今日の卓話を楽しみにしています。

小林 和夫：先日休みを頂きましたので。

杉山 英巳：自宅ベランダにたくさんの花が咲きましたので。

伊藤 英也：多摩消防署長様の卓話、楽しみに致しております。

東京多摩グリーンロータリー・クラブ

会長：萩生田茂夫	副委員長：吉尾警太郎 山崎 光一
幹事：橋口 洋三	委員 平野行廣・飯島裕美・根本泰守
会報委員長：小城 章員	関岡俊二・城倉正博・戸田昭寿

例会場 多摩そごう7F バンケットルーム

事務局：東京都多摩市落合1-9-1
多摩センタービル7階
TEL 0423-72-6463/FAX 0423-72-6491

例会日 毎週水曜日12:30 月の最終例会18:30

海野 栄一：良いお天気ですね。

菊池 敏：多摩消防署長様、いらっしやいませ。

本日合計 金17,000円 本年度累計 金1,151,414円

◎出席報告 出席委員会委員長 海野 栄一

会員総数	55名(1名出席免除者)
出席者数	43名
本日出席率	79.63%
4/24出席率	77.78%

■メイクアップ 14名

- 赤尾 恭雄 (5/15 地区協議会)
- 遠藤 二郎 (5/15 地区協議会)
- 遠藤 立一 (5/15 地区協議会)
- 平野 行廣 (5/15 地区協議会)
- 伊神 稔 (5/15 地区協議会)
- 中山 恒武 (5/15 地区協議会)
- 須藤 起雄 (5/15 地区協議会)
- 高村 弘 (5/15 地区協議会)
- 戸田 昭寿 (5/15 地区協議会)
- 鶴海英三郎 (5/15 地区協議会)
- 高野 範城 (5/14 多摩)
- 田中 實 (5/7 多摩)
- 北村 幸彦 (5/14 多摩)
- 高野 範城 (5/8 城西)

■欠席届出者 11名

- 足立潤三郎 大松 誠二 藤本 吉文
- 伊東 巖 伊澤ケイ子 風間 茂穂
- 北村 幸彦 関岡 俊二 新海源四郎
- 城倉 正博 横倉 譲

◎ロータリー豆知識

ロータリー情報委員会委員 横倉 舜三

「不利な広報」について

(今週の担当：山崎 光一)

【卓 話】

「ロータリー情報について」

小林建鉄工業株式会社

代表取締役 小林 茂様(横浜鶴見西RC)



大熊さんからロータリー情報について何かしゃべれと言うお話でありました。

1月はロータリー理解推進月間であります。従ってロータリーの友の毎年1月号には情報、広報に関するガバナーの座談会の記事がのっております。お読みになった方も多くことと存じます。先日ちょっと必要があって5年位前までの1月号の座談会の記事を拾い読みしてみました。

各座談会に共通してしている発言は会員に対する情報不足と会員のロータリーに就いての勉強不足と言うことあります。そして今年の友の1月号にはあるカバナーが「どんな優秀な社会人でも、ロータリーを知らなければ、ロータリーの仕事はできない。いいロータリアンになりたいと思えばまず正しいロータリーを知ることが基本になります」といっています。手続き要覧に拠ればロータリー情報とは「会員のロータリー知識と理解を広げるような適切なロータリーの考え方を伝えること」と書いてあります。私は地区情報委員長をやりました関係で地区情報セミナーのサブリーダーを2回経験いたしました。その時R1からきた資料の中に、会員に質問してどのくらい正しい回答があるか調査する項目がありました。其の質問は、ガバナーの名前は何か、世界のロータリークラブの数はとか、と言うようなロータリーの基本にあまり関係の無いものばかりであったことに驚いた記憶があります。私はロータリー情報はロータリー用語の解説とか定款細則の勉強とか規定審議会の新しい決定事項を知る事などいろいろな外堀を埋めながら、各会員がロータリーとは何だということをつかんで戴くところに目標をおくべきものだと考えております。しかしこの「ロータリーは何だ」というのがなかなかの問題であります。私は地区の情報委員会で集まった各クラブの情報委員長さんにライオンズ・クラブの話をした後、「ロータリーとは何でしょう」と言う質問をいたしました。一人の回答者もありませんでした。終わったあとで私ならどう言うか

など考えて見ましたがなかなか良い答はできませんでした。私はロータリーとは何か、それは綱領だ、と答えることにしていますが、相手がロータリアンならばそれで良いのですが一般の人に対しての答えにはなっていませんね。手続き要覧第3章国際ロータリーのトップの「ロータリーの定義」には「ロータリーは人道的な奉仕を行い、あらゆる職業において高度の道徳的水準を守ることを奨励し、且つ世界における親善と平和の確立に寄与することを目指した、事業及び専門職務に携わる指導者が世界的にむすびあった団体である。」とあります。これは国際ロータリーの定義です。ロータリークラブの定義は載っておりませんがただいまの定義にある世界と言うことばを地域という言葉に置き換えれば良いと思います。ですから地域に向かって奉仕の理想の精神を奨励し、助長し、拡大するのがロータリークラブの目的なのであります。従って奉仕活動そのものはロータリーの直接の目的ではなく奉仕の理想を地域に植えつけ地域社会を明るくする為の手段と考えねばなりません。ですからクラブの奉仕活動はある意味でロータリアンの奉仕理念の勉強の場であり、またある意味では地域に対するロータリー精神普及の呼び水的な活動でもあり、従って奉仕活動の方法に就いてもそれ相当な工夫と創意がなければその目的を達成することはできません。現在各クラブで行っている奉仕活動は其の意味において考え直さねばならないと思います。社会奉仕の実践決議23-34の第1項に「ロータリーは基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と他の人に奉仕をしなければならぬという言う義務感の間に常に存在する矛盾を和らげようとするものである」と書いてあります。前の定義もただいまの言葉も綱領を別の角度から表現したものと考えて良く、ロータリーとは何か、それは綱領であると言って差し支え無いと思います。其の意味で綱領を良く読んで戴くことがロータリーを知る近道だと思います。そこで良い答をお教えいたしましょう。綱領について1994年の友に、あるバスト、ガバナーがこういう事を言っていました。「綱領にはいろいろな事が書いてあるけれども要するにロータリーとは、自己の職業を天職であると自覚し、思いやりの心で、世のために尽くそうとする人の集まりであり、其の気持ちをさらに高めるために研修する場である。そしてそれを一人でも多くの人たちに伝える努力をする。これがロータリーの目的なんだ」と非常に判り易い説明が書かれています。皆さんは入会するときに綱領を守ることを誓ってロータリアンになりましたのであります。其の段階で奉仕を志す人になっておいでになるのです。この点よろしくご自覚のほどお願いいたします。

綱領を読まれるとき気をつけていただきたいのは、ただいまの綱領は1951年の大会で改正されたもので、それまで複数のObjectsであったものを単数のObjectに直しました。「これを育成し」までが綱領の本体であり、あとのある4ヶ条は綱領を達成するためにはいろいろな方法があるが特にこの4つの方法にその実践事例を示しているものであります。綱領の精神は、ひとつであることを意味している事にご注意ください。また奉仕の理想と言う言葉がありますが、Serviceという言葉はアメリカでは相手の役に立つと言う意味に使われているようで「ロータリーの理想と友愛」の中で「Ideal of Service」とは「思いやりと助け合いの精神である」と明快に説明してあるそうです。笹部さんはこれを「奉仕の気持ちである」とし「他人の身になって考え行動することだ」と説いています。ロータリーを短い言葉で表現されたものが沢山あります。日本ロータリーの創始者である米山さんは「ロータリーの例会は人生の道場である」と言っています。これはロータリーの背後にある教育的機能に着目したものであります。

例会に出席して他の会員の長所を学び自己を教育するという考えがあります。「入りて学び、出でて奉仕せよ」と言うのもこの意味でありましょう。谷津吾逸という人は「ロータリーは組織たてられた道徳である」といっています。ここで言う道徳とは奉仕をさしています。組織たてられたと言うのは例会への参加を意味しているのでしょうか。つまり例会の親睦の内に体得された奉仕と言っているのでしょうか。私のロータリーの先生である小堀憲助先生は「ロータリーは親睦の上に乗った理屈のことであり、理屈とは職業奉仕である」と言っています。これらの言葉はロータリーの神髄を極めた人たちの言葉でそれぞれ独自の角度でロータリーを表現しているものです。私は100人のロータリアンがいれば100のロータリーがあると思っております。しかし自分のロータリーをもつにはロータリーを知ることが必要であります。ロータリーの歴史を勉強するのもその一つでありましょう。

1905年から1915年までのロータリー思想の変化に就いて簡単に触れて見ましょう。1905年ロータリーはポールハリスたちによって職業人の親睦団体であるクラブとして発足しました。その時の問題点は職業人は自由競争の基であい競う事が資本主義社会では前提となっている、と言うことであつた。あい競うが故に互いに疑心暗鬼と不信感にさいなまれていた職業人に親睦を達成させるにはどうしたら可能であろうか。この難問を見事に解決したのが1業1会員制であつたのです。1業1会員制を柱として、実質上の目的を会員間の「職業上の相互扶助」においてスタートした

のであります。そして1906年綱領として2ヶ条が定められました。

第1条 会員の業務上の利益を振興すること。

第2条 性質として社交クラブに伴う親睦その他望ましい諸点を振興すること。

つまり「会員の相互扶助」と「親睦」が当時のロータリーの目的であったのです。会員の相互扶助と言うのは会員相互の取引を義務づけたものです。会員が何か物を買う場合はクラブの会員の店から買う事が義務づけられ会員間の取引は記録され例会で報告されたそうであります。「会員の相互扶助」は初期においては圧倒的に物質的なものでありましたが、次第にそれぞれの職業を理解しあい、その企業上の諸問題に会員相互の周知を集めて助け合おうと言う方向に転身してゆきました。ロータリー思想の発展に伴い1912年廃止されました。当初物質的であった相互奉仕も逐次職業上のアドバイスつまり他の会員に対する思いやり、精神的な相互扶助が広がってゆき、これが後年の職業奉仕の基礎となる訳であります。そして出席はクラブ活動の根本的義務と考え、4回連続して例会出席を怠ると会員資格を失う旨を申合せました。これは今日世界共通のクラブ原則となっているのであります。2代目の会長であったアル・ホワイトが友人のドナルド・カーターに入会をすすめたところ物質的な相互奉仕のの説明を聞き即座にことわりました。そんなものはクラブ内部の利益交換に過ぎず対社会的な意義がかけられている。将来性が無い、と言ったのであります。ポール・ハリスはこの報告を聞き、2ヶ条の綱領のみでは対社会的な意義に欠けているとし第3条 シカゴ市の利益を推進し、市民の中に市に対する忠誠の精神を普及することを加えました。

そして1907年シカゴ・ロータリークラブはシカゴ市内に公衆便所をつくることを提案し、3年の歳月後成功させました。1908年、後にロータリーの奉仕哲学を完成したフレデリック・シェルドンが入会しました。彼はミシガン大学出の秀才で専門は経営学でした。当時、ミシガン大学では販売学の研究が行われており彼も其の研究に携わり販売学の大家でありました。彼の販売理論に拠れば商取引というものを長期的に成立させるためには売手と買手間の信頼関係が確立されていなければならない。長期的に安定した利潤をあげることは、この信用確立と言う精神的境地の確立と表裏一体の関係にあるとしてきました。このような精神的境地の確立をシカゴ・クラブの精神的相互扶助の理論的根拠と考えました。彼は相互奉仕の中にロータリアンの思いやりの精神が存在することを発見したのです。思いやりの精神は他人にたいして奉仕をする事であり、ロータリーの根底には奉仕と言う一般概念が存在すると考えました。

シェルドンは会員の相互扶助は会員の職業上の奉仕活動であると考え職業奉仕と名付けました。会員相互の助言に基づいた営業は会員にとっては利潤獲得の行為であったものが彼にとっては奉仕の実践という言う形に映ったのであります。彼の奉仕理論により1908年から1910年頃にかけては奉仕の場は職業奉仕に重点がおかれ、言うなればロータリー職業奉仕団体であったと言えます。全米にクラブが16に達した1910年全米ロータリー連合が結成され5ヶ条からなる綱領を制定しましたが、その第4条に「進歩的で尊敬すべき商取引の方法を推進すること」と言う職業奉仕の観念が採択されております。そして職業奉仕倫理委員会が設置されました。1908年シェルドンは一つの標語をつくりました。曰く「奉仕に徹する者に最大の利益あり」と言うものであります。これは職業奉仕に重点を置いたロータリーにあって会員は職業上の諸問題と職業倫理の向上に関心がありながら実際には儲けを達成するために悪戦苦闘しているのに着目し其の心境にピッタリくる「儲けんと怒すれば、まず奉仕に徹せよ」と説いたのであります。1909年ミネアポリス、ロータリー初代会長のフランク・コリンズによって「自己を超越した奉仕」「超私の奉仕」と言う標語が生まれました。超私の奉仕という言葉はわかりにくいですね。これは奉仕第1自己第2と覚えてください。この二つの標語は1911年非公式の標語として採択され1950年公式標語として採択されております。このようにしてロータリーの思想は着々として理論的に探求され実践活動の指針として公式化された一つは1913年ロータリーの理念を簡単に表現することが議決され其の委員長に選ばれたアイオワ州のシウー・シティー・クラブのロバート・ハントは全世界のロータリアンからアンケートをとり5000字の原稿を作りましたがシカゴ・クラブの会長の助力により500字に短縮され1915年サンフランシスコの大会で「ロータリー倫理訓」として発表されたのであります。職業道德の基礎の上にロータリーをおこうと言う初期ロータリアンの重大な決意の表明なのであります。これは国際ロータリー細則第16条として採択されましたが宗教色が強すぎると言う理由で1980年廃止されました。もう一つは1915年の決議に基づいてフィラデルフィアの会員であるガイ・ガンデガーによる「ロータリー通解」の出版であります。これは今までのロータリー思想を集大成したもので、広くロータリアンに読まれ、ロータリー運動の理論を一般に普及させるのに役立ちました。（以下「ロータリー通解」の内容の説明）「ロータリー通解」は崇高なロータリーの精神の唱導であり其の純粋性は他に見られないものであります。

（卓話担当：飯島 裕美）